

## 19

## 流域圏対策

## 1) 施策の項目と情報整理

施策の項目	NO	施策内容	実施主体	効果	コスト	課題
①水辺環境改善	1	寝屋川流域水循環系再生構想（大阪府）	行政			
②広域連携	2	琵琶湖・淀川流域圏の再生（大阪府・京都府・滋賀県・奈良県）	行政			

水循環	河川水	地下水	上水	下水再生水	雨水・中水
	—	—	—	—	—

2) 施策・取組、参考事例

①水辺環境改善

1 寝屋川流域水循環系再生構想（大阪府）

○「寝屋川流域水循環系再生構想」は、寝屋川流域における水循環系再生のために、「流域住民の主体的参加により、都市を中心とした人間個人のための水から自然環境を中心とした公共のための水に転換する」を理念にして、次に示す目標を掲げて取り組むものである。

- ・大量消費型水利用から節水、再利用・循環利用型水利用へ転換することによる水資源の効果的配分
- ・人間の水利利用による汚濁負荷増をゼロにする
- ・人と生きものにやさしい環境（自然の水循環）の回復
- ・水文化の保全・再生

<自然の水循環系再生を目指した施策>

施策メニュー	評 価				
	歴史的教訓	自然的、社会的制約	目標達成への寄与度	検討熟度	
山麓部における保水・浸透機能の回復・強化	S1) 森林、農耕地などの保全・整備	○森林の荒廃や農地の減少による保水・浸透機能の損失を教訓とした施策	○流域の自然条件を可能な限り生かした持続可能な施策 ○洪水対策にも寄与 △土地利用計画・都市計画との連携が不可欠	小：平常時水量 (大：洪水、E-17(50%)	A、B
	S2) 雨水浸透施設の設置	○浸透域の減少による弊害を教訓として施策	○洪水対策にも寄与	小：平常時流量 (大：洪水)	A、B
市街地における保水・蒸発機能の回復・強化	S3) 緑地の保全・創出	○人工的舗装による保水・蒸発機能低下を教訓とした施策 ○治水緑地等を活用できる	△土地利用計画・都市計画との連携が不可欠	大：水辺環境 (大：洪水、E-17(50%)	A、B
	S4) 透水性舗装等	○人工的舗装による保水・蒸発機能低下を教訓とした施策	○E-17(50) 現象の緩和にも効果がある ○騒音抑制、ｽﾌﾟﾚｯｼﾞ防止の効果がある △計画的な維持管理が必要	小：平常時水量、水質 (大：洪水、E-17(50%)	B
	S5) 屋上緑化等による保水・蒸発機能の回復・強化	○人工的舗装による保水・蒸発機能低下を教訓として回復を図る	○緑化計画により推進できる ○住民等の理解と協力が不可欠	— (大：E-17(50%)	A、B
水辺の再生、親水化、浄化対策（人といきものへの配慮）	S6) 河岸の再自然化	○治水対策優先で進めてきた河川改修の弊害を教訓とした施策 ○現在の緑地、水路を有効活用できる	○自然の営力の回復を図る持続可能な施策 ○E-17(50) 現象の緩和にも効果がある △河川等の再改修に伴う場合は多大な費用がかかる	大：水辺環境	A、B
	S7) 河川、水路への階段やスロープ等の設置	○治水対策優先で進めてきた河川改修の弊害を教訓とした修復型施策 △あくまで、修復であり抜本的改善ではない	○河川・水路の修復であり、再改修に比較して安価	中：水辺環境	A、B
	S8) まちづくりと一体となった水辺整備	○治水対策優先で進めてきた河川改修の弊害を教訓とした抜本的施策	△土地利用計画、都市計画との連携が不可欠 △市街地のかさ上げなど、大規模工事となり多大な費用がかかる	大：水辺環境	B、C
	S9) 治水緑地等を活用した植生浄化、底泥浚渫	○治水対策優先で進めてきた河川改修の弊害を教訓とした施策 ○奥瀬川がかつて有していたであろう自然の浄化機能を回復 △水質汚濁の原因を踏まえていない	○自然の営力を活用した持続可能な施策 ○大気質への排出負荷量が減少 △植生浄化等は維持管理が必要	中：水質	A

歴史的教訓、制約条件からの評価：○良い評価、△要検討事項

検討熟度：熟度が高い順に、事業段階をA、実施計画等の段階をB、構想段階以下をC

＜人工の水循環系の再構築を目指した施策＞

施策メニュー		評価			
		歴史的教訓	自然的、社会的制約	目標達成への寄与度	検討熟度
山麓部における保水・浸透機能の回復・強化	S1) 森林、農耕地などの保全・整備	○森林の荒廃や農地の減少による保水・浸透機能の損失を教訓とした施策	○流域の自然条件を可能な限り生かした持続可能な施策 ○洪水対策にも寄与 △土地利用計画・都市計画との連携が不可欠	小：平常時水量 (大：洪水、ヒートアイランド)	A、B
	S2) 雨水浸透施設の設定	○浸透域の減少による弊害を教訓として施策	○洪水対策にも寄与	小：平常時流量 (大：洪水)	A、B
市街地における保水・蒸発機能の回復・強化	S3) 緑地の保全・創出	○人工的樹冠による保水・蒸発機能低下を教訓とした施策 ○治水緑地等を活用できる	△土地利用計画・都市計画との連携が不可欠	大：水辺環境 (大：洪水、ヒートアイランド)	A、B
	S4) 透水性舗装等	○人工的樹冠による保水・蒸発機能低下を教訓とした施策	○ヒートアイランド現象の緩和にも効果がある ○騒音抑制、スリパ防止の効果がある △計画的な維持管理が必要	小：平常時水量、水質 (大：洪水、ヒートアイランド)	B
	S5) 屋上緑化等による保水・蒸発機能の回復・強化	○人工的樹冠による保水・蒸発機能低下を教訓として回復を図る	○緑化計画により推進できる △住民等の理解と協力が不可欠	— (大：ヒートアイランド)	A、B
水辺の再生、親水化、浄化対策（人といきものへの配慮）	S6) 河岸の再自然化	○治水対策優先で進めてきた河川改修の弊害を教訓とした施策 ○現在の緑地、水路を有効活用できる	○自然の實力の回復を図る持続可能な施策 ○ヒートアイランド現象の緩和にも効果がある △河川等の再改修が伴う場合は多大な費用がかかる	大：水辺環境	A、B
	S7) 河川、水路への階段やスロープ等の設置	○治水対策優先で進めてきた河川改修の弊害を教訓とした修復型施策 △あくまで、修復であり抜本的な改善ではない	○河川・水路の修復であり、再改修に比較して安価	中：水辺環境	A、B
	S8) まちづくりと一体となった水辺整備	○治水対策優先で進めてきた河川改修の弊害を教訓とした抜本的施策	△土地利用計画、都市計画との連携が不可欠 △市街地のかさ上げなど、大規模工事となり多大な費用がかかる	大：水辺環境	B、C
	S9) 治水緑地等を活用した雑生浄化、底泥浚渫	○治水対策優先で進めてきた河川改修の弊害を教訓とした施策 ○縦断川がかつて有していたであろう自然の浄化機能を回復 △水質汚濁の原因を踏まえていない	○自然の實力を活用した持続可能な施策 ○大気等への排出負荷が減少 △雑生浄化等は維持管理が必要	中：水質	A

歴史的教訓、制約条件からの評価：○良い評価、△要検討事項

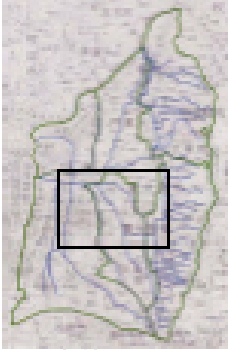
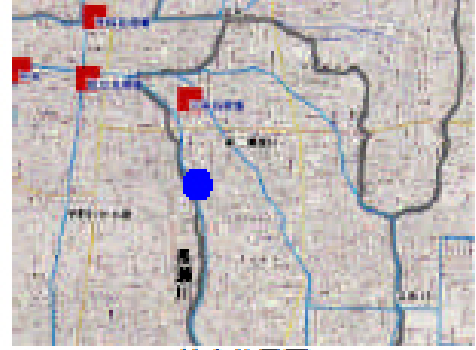


検討熟度：熟度が高い順に、事業段階をA、実施計画等の段階をB、構想段階以下をC

(資料：国土交通省ホームページ)

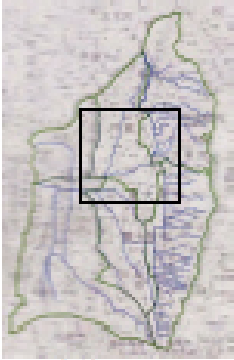
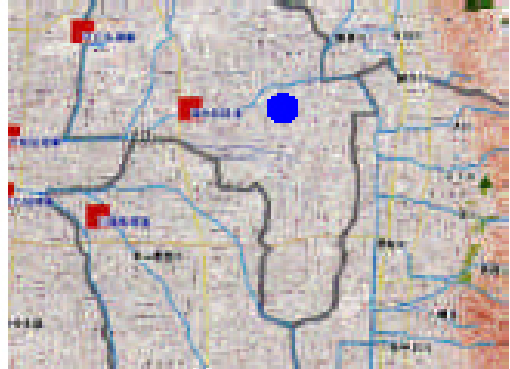
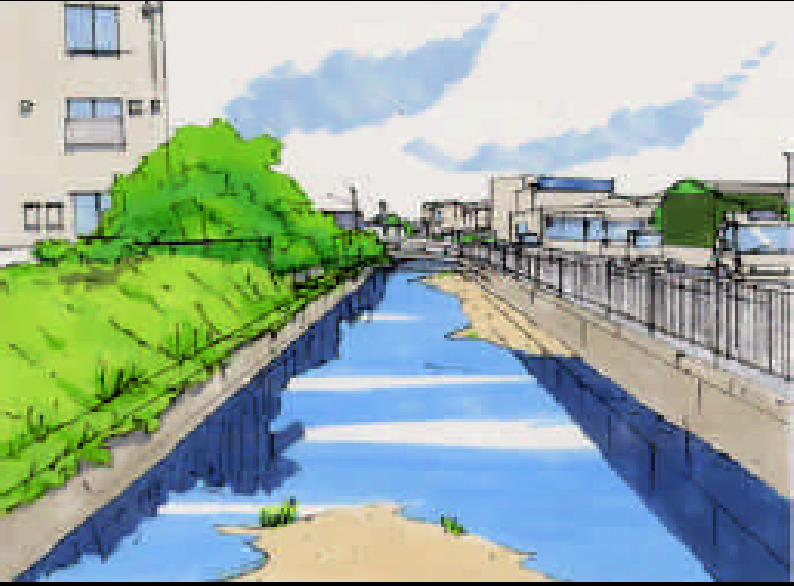

<計画イメージ>

《寝屋川の支川における水辺環境の改善イメージ》

長瀬川水辺環境づくり（長瀬川ブロック）

 <p>全体位置図</p>	 <p>拡大位置図</p>	<p><b>整備内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度処理水や地下水の注入</li> <li>・ 用水と雑排水を分離し、水質の向上を図る</li> </ul>
		<p><b>現況イメージ</b></p> <p>河川の水量は少なく、水深は数cmとなっている。 また、用水と雑排水の分離が十分機能していないため、水質は悪化している。</p>
		<p><b>整備後イメージ</b></p> <p>高度処理水の導水により、水量は増加する。 また、用排水の分離により、河川水質は改善される。 これに伴い、魚種は増加し、人々の水辺利用が進む。</p>

《農業用水路における水辺環境の改善イメージ》

五箇水路（寝屋川中流ブロック）		
 <p>全体位置図</p>	 <p>拡大位置図</p>	<p><b>整備内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度処理水の導水による水量確保・水質改善</li> <li>・ 生態系保全水路の整備による生物生息環境の創出</li> </ul>
		<p><b>現況イメージ</b></p> <p>非かんがい期における河川水量は非常に少なく、護岸はコンクリートで整備され、生物相は乏しい。</p>
		<p><b>整備後イメージ</b></p> <p>高度処理水の導水等により非かんがい期の河川水量は増加し、水質は改善される。また、多自然型護岸の整備により、生物相が豊かになる。</p>

《治水緑地における水辺環境の改善イメージ》

恩智川治水緑地の常時池を活用した生態系復元（恩智川ブロック）

 <p>全体位置図</p>	 <p>拡大位置図</p>	<p><b>整備内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恩智川周辺の生態系復元</li> <li>・ 自然観察の場の提供</li> </ul>
		<p><b>現況イメージ</b></p> <p>現在、治水緑地の整備が進められており、その一部は共用されている。</p>
 <p>イメージ写真（出典：夜屋川治水緑地）</p>		<p><b>整備後イメージ</b></p> <p>恩智川治水緑地の常時池の活用により、治水緑地を拠点とした恩智川周辺の生態系復元や、環境学習による自然環境保全の意識啓発が期待される。</p>

## ②広域連携

## 2 琵琶湖・淀川流域圏の再生（大阪府・京都府・滋賀県・奈良県）

○琵琶湖・淀川流域圏がかかえる様々な課題を踏まえ、望ましい流域圏の姿を形成していくために、「水でつなく“川・自然・文化”」を基本コンセプトとして以下のような取組を行っている。

## 再生プログラム 5つの連携テーマ

## ■みずべプロムナードネットワーク

琵琶湖・淀川流域圏の水辺を、舟運・サイクリング・ウォーキング等でゆったりと味わい・楽しみ・学びながら、周遊できる水辺のネットワークを構築する。

## ■水辺の生態系保全再生・ネットワーク

淡水生物の宝庫である琵琶湖・淀川流域圏の多様な生態系を保全再生するため、希少種等の在来種の保全を視野に入れ、それらを取り巻く生物の生息・生育環境を保全再生する。

## ■水辺の賑わい創出

琵琶湖・淀川流域圏において、まちに潤いをもたらす「せせらぎの創出」、水辺にふれあい、楽しむことができる「親水空間の再生・創出」を図り、人々が集い、活気に満ちた水辺を創出する。

## ■流域水環境再生

琵琶湖・淀川流域圏の水環境に関する様々な課題に対して、森林地域や農村地域だけではなく、流域の恵みを受取る都市部が一体となり、豊かな水を育む森林・農用地の保全及び再生や、河川や湖沼のさらなる水質改善、安定した水量の確保を図り、健全な水環境を実現する。

## ■流域連携

琵琶湖・淀川流域圏の各種課題に対し、地域間・主体間・分野間で連携した一体的な取り組みを継続性のあるものとするため、行政間の連携を推進する組織、市民・NPO・自治会等のネットワークの構築、また、これらを連携する組織を設置する。

## 〈水辺プロムナード 計画イメージ〉



（資料：琵琶湖・淀川流域圏の再生計画（琵琶湖・淀川流域圏の再生協議会））